

文教厚生常任委員会報告

平成 26 年 8 月 28 日
委員長 芝尾 郁恵

文教厚生委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際しましては、平成 26 年 7 月 24 日と 28 日に、関係部課長に出席を求め委員会を開催いたしました。

生涯学習推進課

社会教育振興係から、6 月 15 日に第 1 回古賀市生涯学習笑顔の集いを開催、アトラクションで女子高校生バンドレディなどが日頃の活動を披露。寺子屋 in 庄、花鶴丘 3 丁目区福祉会、舞の里校区の星の子文庫が先進的な取り組みの実践報告を行った。参加者総数 338 人で会場にはたくさんの笑顔があふれ、地域や分野の垣根を越えて活動を知ってもらうこと、交流を生み出すことというつどいの目的は達成できた。文化・スポーツ支援係から、こがっ子元気アップチャレンジに、6 月は 8 小学校で 185 人参加。今年度から試行的に大人も参加しやすいプログラム、ヨガと、ストレッチも実施。市民活動支援係から、市民コスモス講座は、計 20 講座。今年度新たな取り組みとして市民持ち込み企画コースを開始、前期コースの市民持ち込み企画「相撲甚句をマスターしよう」は受講生から好評だった。公民館係からは、仮称古賀市生涯学習センター及び周辺施設整備工事、実施設計概要について説明があり、設計概要は、ホームページ、広報 8 月号で掲載する等の報告を受けました。

委員から、元気アップチャレンジの参加者は毎回同じか、体力アップの確認はどうみるかの問いに、毎回参加が 3 分の 2 ほど、この事業は子どもが身体を動かすきっかけづくりと考えている。体力の数値を図るのは難しいが、参加児童の新体力テストの数値で比較出来ないか検討中、昨年の小学校 5 年生の女子の新体力テストは 8 項目中、6 項目が全国平均を上回った。(2 年前は 2 項目) また、仮称生涯学習センターのランニングコスト、文化協会の事務所についての質疑をしました。委員から、クロスパルこがの利用者の個人情報流出しない手立てを講じるべきとの意見がでました。

サンフレアこが

文化財係から、発掘調査については遺物埋納坑の底の部分の詳細調査を継続中。墳丘、石室の再調査を計画。遺物整理作業は、8 月より九州歴史資料館で連携し行う。8 月中旬に調査指導委員会を開催し今年度の計画等について審議を頂く予定。歴史資料館係から、7 月 18 日から 8 月 31 日まで、特撮美術監督井上泰幸展を開催。絵コンテのオリジナル作品や写真 139 点、ご寄贈いただいた遺品 100 点など、この規模の展示会は全国でも初めてで、開始 5 日間で 975 人が入場した。図書館係から、7 月 20 日に市内 6 つの地域文庫を招き、夏のおはなし会スペシャルを開催、小さい子どもから大人まで 90 の方が楽しむイベントとなった。10 月 17 日におはなし会昔っこ代表梅田恵子さんを迎え「大人のおはなし会」を開催予定。

委員から、図書館の CD、DVD の状態についての確認の問いに、7 月から CD 研磨機をリースし、音飛びや映像の乱れを修復できるようになった。

教育総務課

施設管理係から、花鶴学童保育所建設工事は 7 月 16 日に入札。工期は平成 26 年 7 月 24 日から 10 月 31 日まで、契約先は三輪工務店に決定。生涯学習センター及び周辺施設整備工事は、現在入札公告中。通学路の危険箇所への対応については、9 か所の検討事項があったが、地域

交通安全活動推進委員と福岡県警、建設課と協議し、平成 26 年 7 月付けで全個所対処済みの形となった。うち通学路の見直し中が 2 件、対処方法の協議だけで未施行、施行予定が立っている箇所が 3 件等の報告を受けました。

委員から、花鶴学童の設置場所、面積など全く報告も受けずに工事に入るが保護者の理解を得られるか、運動会やサッカーなど影響はないのか、また、早い時期に委員会に報告が可能ではとの問いに、学校側と F C 花鶴と設計事務所等と協議し、トラックが余裕をもって入ること、コートが取れることで配置の了承を得た。皆さんへの説明は慎重にしかるべき時期を見計らい、報告のタイミングは早目に心掛けたい。

学校教育課

6 月末現在の、市内小中学校の不登校数は昨年より 8 人減の 15 人。昨年度、適応教室あすなる教室に通っていた 8 人の卒業生は全員高校に進学し登校できている。就学援助の支給状況は申請世帯 430 世帯、認定世帯 388 世帯で昨年より増加している。平成 25 年度末は全生徒児童 4,962 人中 615 人、12.08%の認定率だった。今年度のドリームステージは、9 月 8 日から 12 日の 5 日間、市内の 140 事業所で 546 人の生徒が体験学習をする予定。小学 5 年生の接遇マナー研修は 9 月第 2 週に 8 小学校で実施。

委員から、夏休み期間は学童保育で長時間みることになるプール利用等、少し学校教育課の支援が必要ではとの問いに、学童保育の活動の中に元気アップチャレンジとの連携をお願いしている。プールの利用についても活動の中に入れて頂いた。その他、落ち着きのない荒れたクラスへの対応、5 年生での接遇マナー研修の効果などについて質疑しました。

青少年育成課

地域つながりあいさつ運動について、今年度ものぼりを作成し、各行政区、学校に配布し掲示を依頼。街頭啓発として、夏休み明けに地域の大人が見守っていることを実感して気持ちよく登校してもらいたい、地域の方にも意識を向上していただきたいというねらいから、8 月 27 日に市内 8 小学校一斉にあいさつ運動を実施予定。アンビシャス広場づくり事業補助金の申請団体が今年度 3 団体に減った。要件である週 2 回以上の実施と報告書類の複雑さから厳しい状況になり、古賀東、花見小学校区は自主運営に切り替えた。7 月 12 日、青少年育成市民会議主催の青少年健全育成大会を開催、参加者総数 186 人で、土井先生の講演が好評だった。

委員から、相談事業の件数自体は減っているが家庭問題の相談数は増加している。相談することで解決やいい兆しの方に向いているのか、状況はの問いに、問題がすべて解決に至ることはないが、相談することで少しでも肩の荷が軽くなったとは聞いている。

学校給食センター

6 月 27 日に第 1 回目の学校給食センター運営委員会を開催。4 月 30 日、7 月 2 日に献立委員会を開催。食育推進事業として、花鶴、小野、青柳小学校で試食会を実施。栄養教諭が学校へ出向き食育の推進に努めている。6 月末現在でアレルギーの相談を 11 件受けた。8 月 8 日青柳小学校で親子給食料理教室を開催予定。生産者にも声かけし交流できる事業にしたい。農産物使用状況については、6 月からタマネギ、ニンジンの新しい納入者ができ、古賀産使用率が 66.6%と過去最高になった。食器破損状況は、学校の先生方の指導が行き届いたのか、昨年度と比較し約 170 枚減の 356 枚となった。

委員から、アレルギーのある児童生徒数、アレルギー対応の状況、アレルギーにより牛乳が飲めない子の給食費の対応などの問いに、4 月の調査で小中合わせて 120 人がアレルギー。施設の問題もありアレルギー食の対応はしていない。アレルギー対象者には、細かい食材も記載した別献立表を配り、個々の学校で個別に対応。牛乳を省いた給食費の軽減は対応していない。

保健福祉部福祉課

社会係から、6月現在、災害時要援護者同意率は75.4%。今年度70歳以上の独り暮らし及び75歳以上の高齢者のみ世帯、未同意の方を対象に、災害時要援護者に係る調査を民生委員さんに依頼、8月から10月にかけて高齢者調査と同一調査として実施。第28回古賀市健康福祉まつりを10月19日サンコスモ古賀で開催予定。今年度も市民ウォーキング大会と同時開催する。障害者福祉係から、古賀市内における法定雇用率の達成事業所は15社、未達成事業所が13社。障がい者を対象とした就労支援セミナーを7月30日開催、障害者就労支援事業の説明、就労部会によるロールプレイを予定。保護係から、6月末までの生活保護受給世帯469(671人)。保護率11.5%でほぼ横ばい状況。臨時福祉給付金の封筒に印刷ミスがあった等の報告を受けました。

委員から、雇用率達成の15事業所で障がい者は何人雇用されているか、未達成事業所に対しての今後のアプローチはの問いに、就職者の数は把握していない。未達成事業者も開示されていないので指導は厳しい。就労部会で職場体験受け入れマニュアルを作り啓発を図ろうと考えている。委員から、障がい者に関する法律が改正された時は当事者への周知を徹底すべきとの意見がでました。

予防健診課

健康づくり係から、今年度10月1日より、水ぼうそう及び成人用肺炎球菌ワクチンが任意接種から定期接種となる。水痘ワクチンは1歳から3歳になるまでの間2回接種。古賀西小学校では、4月以降約1カ月半の間に8人の児童が骨折、ピンチと捉えた養護教諭からの相談で、保護者と一緒に食生活を見直すきっかけに骨密度測定を計画。まず、5、6年生の測定を行い、保健師から「まごたちはやさしい」という取ってほしい食事などを講話、2週間後の6月19日には参観日にあわせ保護者の測定会を実施。親子とも若干低い数値結果が出たが、家庭で子どもからまごたちはやさしい話を聞いたということがわかり、小学生では子どもが学校で学んだ事をしっかり保護者に伝えていることに気づく大きな一歩となった。これをきっかけに他小学校での測定も進めたい。今年度は7月現在まで2,130人を測定。夏休みに入る前の子ども達に性に関する教育をとの学校からの依頼で、7月16日に古賀東中学校で、3年生95人に対して、予防健診課の保健師が性教育を実施。生徒達が非常に真剣に聞き、アンケートにも自分の命を考えるいい機会になった等びっしり感想を書いていた。健診指導係から、7月初めに特定健診とがん検診、未受診の方に勧奨ハガキを送付。受診率が低い小野、青柳校区には保健師が組長会等に出向き受診勧奨をしている。

委員から、骨密度測定を保護者と一緒に行ったことは食育を推進する上でも効果は大きい。今後、学校、給食センターの栄養士等と連携して全小学校で実施しては、性教育も3中学全てでとの意見がでました。

介護支援課

介護予防係から、高齢者外出支援促進事業は、7月現在ポイントカード1,500枚を配布し、かなり普及し参加者も増えている。いきいきセンターゆいでは6月から木曜日に地域活動を行っている方に高齢者の元気づくりの活動指導を開始。第1弾として家で簡単に出来る家トレを推進。好評で問い合わせも多かったCM体操はHPに掲載しダウンロードして使っていただけるようにした。7月16日ふれあいセンターりんの10周年記念式典を開催。利用者である高齢者の方がたのパワーを感じるよいイベントとなった。包括支援センター係から、徘徊等により行方不明になった高齢者を早期発見出来る仕組みづくりを行うため、新規に認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業を福岡都市圏内の協力自治体で一斉に取り組む。10月に事前登録を

開始、11月に検索メール配信開始の予定。介護保険係から、65歳以上の人口、第1号被保険者は698人増の1万2,760人、高齢化率は1.39ポイント増の21.83%となった。要介護(要支援)認定者数は前年同月比、80人増の1,896人。全認定者に対して介護保険サービス未利用者は317人で、サービス利用率は83.3%。要支援1、2の未利用者について調査を行った所、約4割が現在は必要ない。約2割が入院中、約1.5割が住宅改修、福祉用具の購入のみとなった。8月11日、県主催の第6期介護保険事業計画について総合事業のガイドラインなどの説明、伝達会議が開催される。内容をしっかり把握して事業計画の施策等へ反映していく。

委員から、権利擁護関連相談件数の6月末の虐待に関する相談16件について、相談者の内訳はどの問いに、地域の民生委員さんや介護サービスの事業所の方からのケースが多い。委員から、認知症高齢者がいなくなったときにどこに相談していいのかわからず困ったとの切実な声を聞く、徘徊SOSネットワークが機能するまで、認知症サポーターや地域の方に見守りの協力を得ることも必要ではとの意見がでました。

隣保館

地域交流促進事業の人権教室として、大刀洗平和祈念館周辺のフィールドワークや8月9日長崎市の原爆被害跡地等の体験学習など5日間開催予定。現在11人の申し込みがあり、引き続き、気になる子の参加を促したい。スタンドアロン支援事業は、7月24日に開講式を開催。参加者は52人。1次の事業として8回、社会体験学習を行う予定。第1回目は、「未来の古賀に怪獣現る」特殊撮影の映画を作ってみようという活動企画に中学生10人が参加。家庭学習力アンケートとして学ぶ意欲、自己成長力などを調査するため早稲田大学大学院教職研究科の田中教授の作ったアンケートを使い、1、2、3次各同じ調査を行い、参加児童生徒の家庭学習等の捉え方や自尊感情の変化を測定していく予定。

子育て支援課

こども係から、保育所の入所状況は7月現在、昨年比50人増の1,111人。保育ニーズの高さを感じる。現時点で待機児童は出していないが、1歳児が7人の余裕しかない。休日保育については、8月位に保護者にアンケート調査し、新制度を含め、久保保育園と細かい検討をし、12月に周知、1月の開始を考えている。子ども・子育て会議については、県の説明会にて来年3月までに計画を作ればよいとのスケジュールが出された事に伴い、予定を変更し1月に答申書の作成、パブリックコメントは2月になる予定。家庭支援係から、全6回予定のイクメン道場の第1回目を5月10日に開催。定員20人に対し15人の父親が参加。赤ちゃんを抱っこして簡単なダンスを踊り、親子のスキンシップとコミュニケーションを図る内容で、寝かしつける自信がついたとの感想も聞かれた。子育て応援サポーターの最新の受講生は23人。20代から70代まで幅広い年齢層だが、多少、地域別にばらつきが出ている。来年度以降の訪問活動開始まで検討を進める。

委員から、保育所入所に際し、ひとり親家庭などの優先枠はの問いに、優先枠はないが、点数配分を高く設定している。保育所の入所率は今、114%だが今後の見通しと、舞の里新設保育園の開所の見通しはの問いに、4月から7月までの伸び、増加傾向をみると平成25年は27人のところ今年度は62人増えて昨年の倍の伸び。このままいけば、3月末時点で1,280人位になる可能性もある。舞の里保育所は平成27年4月開所で進めているが、厳しい状態。現時点では間に合うように想定し協議を進める。

以上、議会閉会中の調査事項として、付託を受けておりました調査の概要報告を終わります。